

## 選考経過（膜構造デザイン賞）

膜構造デザイン賞には、11作品の応募があった。応募作品は、スポーツ施設、駅舎、空港、広場、エントランス、住宅、倉庫など、多様な用途と空間に膜構造が用いられていることを改めて示す内容であった。審査は書類選考による1次審査、現地審査による2次審査の2段階で実施した。1次審査（2023年11月16日）では選考委員による投票と協議により6作品に絞り込んだ。2次審査（2024年2月10日、2月14日、2月29日、3月6日）では、現地にて設計者によるプレゼンテーション、視察、質疑応答を行い、当日欠席の委員は後日、個別に視察を実施した。最終選考会議（2024年4月2日）では、オンライン出席を含めて11名の出席のもとで選考を行い、6作品の資料を縦覧した後、全委員での議論と複数回の投票を行った。なお現地視察を実施できなかった委員2名と、利害関係のある委員は投票を棄権した。

本年の膜構造デザイン賞を下記の3作品に決定した。

「Building of Music（神田宮地ビル）」

「ホワイトライノII

～テンセグリティの構造システムを用いたサスペンション膜構造建築～

「国内初のETFEクッション構造膜による新しい「空」のデザイン

～安全・安心×開放感×伝統継承への挑戦～

今回は第1回目ということもあり、有力な作品が多く、それぞれが拮抗した中での選考となった。

表彰委員長 河端昌也